



善正寺だより

掲示板法話

明日死ぬと死んで生きなさい 永遠に生きると思つて学ばなさい

NHKの「人生相談・渋護持」という番組に「仕事を止めて空しい、云々の投書がありました。その時コメントーターを務めた釋徹宗先生(浄土真宗の僧侶、宗教学者)がインド独立運動の父、ガンジーの次の言葉を紹介されました。

「明日死ぬと思つて生きなさい
永遠に生きると思つて学ばなさい」
明日死ぬと思えば、うかうかしておれない。「我が命の行方」を訪ねずにおれませんね。

実は、先月名古屋のご門徒さん宅で報恩講をお勤めした時、長く在宅療養中のHさん(89歳)から同じような問いかけを受けたのです。

「ご院主さま、どうか私をお浄土に導いてくださいませ」と酸素吸入器を付けたまま、あえぎあえぎしながらも真剣な表情で言われました。僧侶といえども、人をお浄土に導くことなどできませんが、両手をしっかりと両手で握りながら話し始めました。

「あなたはいつも過去帳にご両親様だけでなく、お世話になった恩人の命日をごまなく記して、お勤めを欠か

(ガンジー)



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

さない日暮らしてました。信仰心厚いご両親様の後を継いでよく勤められました。如來さまはお念仏となつて我々に呼びかけ働いて下さいます。念仏申さずにおれぬ時、もうすでにお救いの中に抱きとられていきます。あなたが先か、私がかかわかりません。同じみ親の仏さまの御同朋、兄弟です。一緒に念仏申しましょう」とお念仏唱えました。「うんうん」とうなづき、荒い息づかいの中から共に念仏申すこの人の声が次第に大きく力強く響きました。傍の家人もいつしか一緒に念仏を称えて下さり、感動的な報恩講のお勤めになりました。

その日から丁度1か月後、Hさんはお浄土の人となられました。臨終勤行(枕経)に伺った時、「先月、報恩講をお勤め頂いて、お話をさせて頂いてから容態はだんだんと悪くなりましたが、心は安らかにになり、安心したようです。有難うございました」と奥さんから感謝されました。

長年お聖教に親しみ、称名念仏怠りなき生活を続けてきておられたから、素直に疑心を交えずお念仏申され、お

☆行事ご案内

◇2月の門信徒会例会

2月18日(日)夜7時半

- ①ダーナの日、2月15日の涅槃会(お釈迦様の入涅槃)に因んで、「無財の七施」についてお話、座談。
(仏法とは施しの実践、眼施、和顔悦色施、言辞施等・・・)
- ②平成30年度の行事計画などについて

◇春季永代経 3月17日(土)18日(日)共に午後1時半

講師:加藤学先生(桑名)お経開き17日10時半(招待者)
(初日の夜の法座はありません)

◇一線会テレホン法話 Ⅸ 059-354-1454 三重組有志の僧侶・坊守、若院が週替わりで3分法話、新刊法話集発売中!

◇絵手紙教室 2月13日(火)午前10時 29回目川崎光子先生 庫裏食堂で。作品は小杉郵便局にも展示

◇キッズサンガ2月3日(土)午後4時。鐘撞きは毎日夕方5時、年中無休。子供に心の教育と礼儀作法を身につけさせよう!

◇初参式の赤ちゃん幼児募集! 4月21日(土)午後1時善正寺 三全仏婦主催、参加費千円、地域で子供の誕生と成長を祝福!

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧。
毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸9年6か月で25万8千訪問、一日平均80人程、悩み相談、大歓迎!即返信

◇新納骨堂:後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事の場所でお困りの方:本堂使用可。寺にご相談下さい。



救いの中にある身だと受け止められるようになったのです。たとえ身は病に苦しんでいても心安らかな最晩年に変えられていかれたことは、住職として有難く、嬉しくさえ思われます。

この世に、永遠に生きる人などありません。いつ人生の幕が下りるか分かりません。だからこそ油断なく命の行方を訪ね、学びつつ、共に「この世の利益きわもなし」という人生に歩みを進めたいと思うのです。

写真アラカルト



坊守スケッチ 散歩と頭の体操

住職が毎週必ず見ているテレビ番組があります。それは木曜夜7時から『プレバト・俳句』(TBS)です。選者の夏井いつき先生の講評が的確で人気です。出演者の出来栄で、名人、才能あり、凡人、才能なしのランキングも面白いからです。写真を見て一句作るのとは中々難しいものです。

住職はこの番組に感化されて、最近俳句作りに夢中。自ら俳号をつけて、こっそり寺報に投稿し、ブログにも公開しています。無料で出来る趣味なので大いに歓迎しています。

俳句は五感を磨いて、絶えず感動のアンテナを張り巡らせないと浮かんできません。毎朝一緒に散歩する私はただぼんやり景色を見ているだけ。同じ場所と時間を共有しても、感じ方の受信装置はまるで違うのです。

一方の私とは言えば、親鸞聖人が晩年心血を注がれた『和讃』を、旧節の恩徳讃で歌いながら歩きます。上り坂でも、親鸞さまが背中を押して下さるように足取りが軽くなります。帰路に着くまでに好きな和讃を40首程歌います。それはオリジナルの『マイお経』であり、『マイ行進曲』なのです。散歩後は仏様の光に包まれたような感動を味わいます。私のお気に入りの和讃2首は「無碍光の利益より 威徳広大の信を得て かならず煩惱の水とけ すなわち菩提の水となる」と



「罪障功德の体となる 氷と水の如くにて 氷多きに水多し 障り多きに徳多し」(共に高僧和讃)。苦惱の種が多ければ多いほど、自分を成長させてくれる功德も多いというイメージしやすい和讃です。

身体を動かすことと頭の体操を同時にやることは、認知症予防にもなります。老いに向けて、自分の健康は自分で守り健康寿命を延ばしましょう。

カンパありがとう!

伴野様、高橋様、正親様、豊住様、柴田様、本田様、日種様、富田様、木田様、松岡様、他匿名様よりお志、切手等頂戴。厚く感謝申し上げます。

敬用

★服部博治様(1月7日往生。89歳 名古屋市)合掌

寄稿

四日市市 釋清風

- ・元日や浄土の旅の一里塚
- ・お年玉供えし朝の清しかな
- ・賀状来ぬ友の身遥か想ひをり
- ・水仙や去り逝く人を偲ぶ朝
- ・寒椿ひとひら散りて菩提かな
- ・辛くとも目覚めお勤め親鸞忌



☆若院夫婦の『育自な毎日』その38

昨年末、私達家族に嬉しいお知らせが飛び込んできました。長男(5)が第49回全日本児童美術展で大賞をいただいたというもの。長男が幼稚園の放課後の絵画教室に通い始めて1年4か月、毎回一枚の絵を仕上げるので、総数は70枚以上になります。始めた頃の絵と今の絵を比べると上達は明らかで、毎回何を描いてくるのか楽しみにしています。以前お迎えに行った時は、声高らかに「宇宙戦艦ヤマト」の歌を歌いながら筆を動かしていたので、ご指導いただきG先生にもすっかり気を許しているようです。先生から美術展の出品を勧められました。授賞式は1月5日に名古屋・栄で行われました。私と子供らと実家の父の4人で出かけました。長男は初めて地下鉄に乗るのでワクワクでした。会場小学生や中学生に囲まれ、緊張した面持ちで賞状を受け取りました。賞状の他に特大の盾や絵の具・色鉛筆などの副賞を頂いて大感激。親子共々受賞の喜びを分かち合いました。

受賞した絵は「山の家」という題で、夏休みに家族で旅行した浜名湖の風景が描かれています。パンガローとホテルが建ち並び、長男が景色を見下ろし、周りを鳥たちが楽しそうに飛び回る絵です。細部までよく描き込んであり、明るい色調で喜びが素直に表現されたことが評価されました。帰宅後、祖父母に賞状や盾を見せ、本

堂の仏様の前で記念写真を撮り、本人はとても満足そう。年明け早々、家族に喜びを運んでくれた長男の力作に感謝したいと思います。喜びや悩みを共有しながら本家の家族になつていくのだと実感しました。(若坊守)

ホットニュース

◇新刊本一縁会テレホン法話集『参らせてもらうでね』(自照社刊800円)発売中。14冊目の法話集。善正寺からは住職、坊守、若院の3名が寄稿。

◇除夜の鐘・元旦会・お朝事には多数のお参り頂き有難うございました。帰省中の息子さん家族が揃ってご参詣頂き感激しました。記念写真で孫さんの成長の早さに驚くばかり。新年のスタートに相応しい幕開け。また13日から16日までの連続4日間の朝7時から『御正忌お朝事』には、早朝にも拘らずのご参詣に感謝。真宗門徒のプチ修行。寒さに負けず身の引き締まる正信偈と温かな茶話会。今年もお参り出来た幸せを喜び合いましょ。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」290号をお届けします。◇寒さ厳しき今冬、如何お過ごしでしょうか?◇転倒が元で長らくご指導頂いた恩師が逝かれました。「昨年あんなに元気そうだったのに!」と嘆きの声しきり。お別れは突然やって来る、ということを改めて思い知らされました。◇長寿時代だからこそ「無常の世」と身を引き締め生かされて参りたいと思います。合掌。

善正寺の御正忌お朝事が勤まる一月中旬は一年で一番
寒い時期。丁度一年前、三重组十三日講の初講寺院と
ご本山の報恩講に代表参拝する役目がありました。十数
名の世話方様らと懇志を上納してお斎接待を受けも樂
しみもありました。ところが連日の大雪で三度も予定変
更、結局報恩講が終った翌日にご本山に懇志を上納
しました。今年も寒波が到来。昨年のような大雪害が
無いことを願うばかりです。ところで私は今年ご本山報
恩講に午前中参拝し、午後は奈良の第42回真宗講座
を聴聞する計画を立てました。ご本山の本堂には暖房は
なく大半の人が畳での正座。殆どの参詣者が外套の上
に式章姿。午前十時、厳かな雅楽の音色が御影堂二杯に
響き渡り法要が始まりました。ヒーンと張りつめた緊張感
の中にも何故かから感動の涙が溢れてきました。法要タイ
ルは昔と変わらないのに、全国から集った人々はこの感動を
味わう為に来た。我が力ではなく、親鸞様に導かれてこの座
に着くのだと気付かせて頂きました。午後には奈良の石川
欣也先生のご法話を聞きました。善正寺だよりの生みの親であり
尊敬する先生です。「御正忌の朝晴れわたり淑気満ち
念仏目ざむいのちすかしも」という先生のお歌、御法楽献
詠入選歌になりました。長年布教使として活躍され、レ
ホン法話や真宗講座も継続される真摯なお姿を
私達のお手本として学び精進したいと思っております。

平成三十年二月 合掌 善正寺方守 拝